

広島市スポーツ振興審議会第1回スポーツ振興計画検討部会 会議録

開催日時

平成21年3月9日(月) 午前10時～正午

開催場所

広島市中区地域福祉センター5階大会議室

出席者

- 1 委員(五十音順)11名全員出席
東川委員、小野委員、阪田委員、崎田委員、曾根委員、田川委員、中本委員、鍋島委員、西野委員、萩原委員、本谷委員
- 2 オブザーバー 3名中1名出席
新出オブザーバー
(欠席:中野オブザーバー、富中オブザーバー)
- 3 事務局(市)
市民局文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、
教育委員会学校教育部指導第一課スポーツ教育担当課長

会議次第

- 1 開会
- 2 委員及びオブザーバー紹介
- 3 部会長及び副部長選出
- 4 議事
 - (1) 広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案(平成17年3月作成)の施策【第4次広島市基本計画の体系別】について
 - (2) 広島市総合計画の改定(次期広島市総合計画の策定)に関する検討状況について
 - (3) スポーツ振興に関する取組の現状と今後の課題等について
 - (4) 市民意識調査の実施について
- 5 閉会

公開・非公開の別

公開

傍聴者

なし

会議資料

広島市スポーツ振興審議会第1回スポーツ振興計画検討部会 次第

広島市スポーツ振興審議会第1回スポーツ振興計画検討部会 配付資料目次

議事の(1)関係

広島市総合計画の体系

広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案（平成17年3月作成）の施策

【第4次広島市基本計画の体系別】

議事の(2)関係

広島市総合計画の主要改定課題に対する対応策

広島市総合計画の主要改定課題に対する対応策体系図

議事の(3)関係

スポーツ振興に関する取組の現状と今後の課題等について

広島市のスポーツに関する基礎データ

議事の(4)関係

広島市スポーツに関する意識調査の概要（案）

広島市スポーツに関する意識調査の質問項目（案）

平成14年度に実施したスポーツに関する意識調査の調査票

会議の要旨

- 1 開会
- 2 委員及びオブザーバー紹介
（委員及びオブザーバーによる自己紹介）
- 3 部会長及び副部会長選出
（委員の互選となっているが、事務局より提案することの了承を得て、部会長に東川会長を、副部会長に小野副会長を選出）
- 4 議事（「 発言の要旨」参照）
 - (1) 広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案（平成17年3月作成）の施策【第4次広島市基本計画の体系別】について
 - (2) 広島市総合計画の改定（次期広島市総合計画の策定）に関する検討状況について
（議事の(1)及び(2)を一括説明し、説明内容について意見交換後、了承）
 - (3) スポーツ振興に関する取組の現状と今後の課題等について
 - (4) 市民意識調査の実施について
（議事の(3)及び(4)を一括説明し、議事の(3)については意見等なし、議事の(4)については意見交換後、意見を踏まえた修正を行い審議会へ諮ることです承）
- 5 閉会

発言の要旨

【議事の(1)：広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案（平成17年3月作成）の施策【第4次広島市基本計画の体系別】について】

【議事の(2)：広島市総合計画の改定（次期広島市総合計画の策定）に関する検討状況についてについて】

〔東川部会長〕

議事の(1)「広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案(平成17年3月作成)の施策【第4次広島市基本計画の体系別】について」と、議事の(2)の「広島市総合計画の改定(次期広島市総合計画の策定)に関する検討状況について」は関連性があるため一体的に事務局から説明をお願いします。

〔事務局(スポーツ振興課長)〕

<配付資料を説明>

〔東川部会長〕

事務局から「広島市スポーツ振興計画検討委員会で検討された素案」について説明をいただいたが、内容について何か御質問等があればお願いします。

〔本谷委員〕

吉島体育館の建て替えが記述されている。今までの流れは分からないが、個別に吉島体育館だけがあがっているのはどういうことなのか理解できない。

〔事務局(文化スポーツ部長)〕

や や は、あくまで総合計画の案としてあがっているだけである。現在、施設的なものは吉島体育館だけなので、これだけ記述しているというだけであって、振興計画をつくる時はこのことにこだわる必要はない。吉島体育館を一つだけ入れるのはどうかということであれば落としていただいてもよい。何か思いがあって、これだけ載せているわけではない。

〔曾根委員〕

総合型地域スポーツクラブにもNPO法人化しているクラブはあるが、まだまだという状況である。市としても企業までは入れなくても、「NPO法人化への育成支援」というものをどこかに入れた方がよいのではないか。このことがまったく入っていないということは寂しい。

〔事務局(文化スポーツ部長)〕

ここは、落とすということではなく今回基本計画に出てないということであり、今後は入ってくるだろうと思っていただいて結構である。

〔曾根委員〕

では、今回は「プロスポーツ・企業スポーツ等の振興」に入ってくるのか。

〔事務局(文化スポーツ部長)〕

どこに入れるかについては、実際作っていく時に検討してほしい。

〔鍋島委員〕

子どもの体力が落ちているのは周知のとおりである。そこで市民スポーツを通じて体力向上をやろうとか、学校教育を通じて体力向上をやろうという形になっているが、今、結構学校と地域がある一面ではすごく融合しているが、ある一面では切り離されている状況がある。このような中で、検討委員会の素案では学校も地域も一緒のような感じになっているが、今回はあえて学校教育と地域スポーツが切り離されているように感じる。学校教育と地域スポーツの連携について言及する必要があるのではないか。三遊間に「ぼてん」と球が落ちることのないようにどうやって連携していくかということが非常に期待されていることではないか。

〔事務局(文化スポーツ部長)〕

今回の資料は、基本計画が策定途中であるため学校教育だけ分かれているようにみえるが、実際はスポーツ振興計画をつくる時には、検討委員会の素案と同じようにスポーツ振興計画の中に子どもの体力の向上や学校と地域の連携が入ってくるというイメージになると思う。基本計画はベースとして振興計画を作っていただきたい。

〔田川委員〕

新しい「スポーツ王国広島」の創造というキーワードは非常に重要である。全体の計画から言うと、今回の総合計画の違いは「新しい」ということと、「創造」という言葉が使われているところに市の姿勢がここにあるのではないかと捉えている。

したがって、今のような連携という問題であるとか、NPO法人化といった新しい問題も含めて全体的に議論すべきである。「これから作っていく」というイメージを大切にされた方がよいと思う。

〔東川部会長〕

今回大きく柱が変わったように思う。今回の総合計画を作成するにあたってはスポーツ関係者の意見も入っていると思うが、今回のこういう柱立てになった背景や思いというものを聞かせてもらえれば、今後スポーツ振興計画を検討していく中でいろいろと反映していけるのではないかと思うがどうか。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

「新しいスポーツ王国広島」というのは、スポーツ振興課が出したテーマということではない。総合計画を議論される中で、スポーツ王国の復活ということが言われていて、かつてサッカーであるとか野球であるとか、プロを含めてトップにあった頃に復活させていきたいということは今までよく言われてきたことであるが、単にトップスポーツだけではなくて、市民であるとか、子どもであるとか広い意味でスポーツが盛んになって、ゆくゆくはスポーツ王国復活かもしれないが、そういった意味で新しいスポーツ王国を目指そうというスローガンを掲げて、トップの部分だけではなくて、それ以外も含めてスポーツでトップレベルであるべきだというような議論があったように聞いている。

〔曾根委員〕

総合計画の検討の中で対応策の柱に新しい「スポーツ王国広島」とあるが、他の委員から「またスポーツ王国広島か、新しい言葉はないのか」という意見があって、もっと適切な表現がないか、皆さんからもご意見を頂きたいと思っている。スポーツ王国広島というのがある意味キーワードになっている。ではスポーツパラダイス広島なのか。「スポーツ王国広島」をどのように解釈するのかによっていろいろ変わってくると思うが、「またこれなのか」という意見があったことは確かである。

〔田川委員〕

スポーツ協会では、そのような意見があるということで、財団の柔軟性ということで、スポーツ王国広島という言葉を私どもの実施計画の中にあげさせてもらっている。この言葉はこれに似ているのであるが、ただ、スポーツ王国まではいいが、「広島」はひらがなの「ひろしま」である。ようするに、障害者の方も、子供たちも、あるいはトップスポーツの方々も、一つになって新しい広島のスポーツを作って行こうと、その接点、つながりを我々がどう作っていくのが協会の仕事であろうと議論しながらやっていこうということである。

実は、これからの我々の仕事のイメージというか、取り組むスタイルになると思っている。したがって、具体的な施策はたくさんあるけれど、一番重要なのは、こういった障害者のみなさんにとってもスポーツ王国であり、子供たちにとってもスポーツ王国であり、あるいは当然トップスポーツ、プロスポーツもそうであり、いわゆるピラミッド型のスポーツ王国を考えたらどうかというようなことがスポーツ協会の中で議論されている。

〔鍋島委員〕

豊かさの物差しが変わったというふうによく言われるが、我々が日本人の中では何を幸せと

感じるか。

そういう面では、スポーツを通じながら生活が豊かになる。物を集めて豊かになった時代から、スポーツを見たりしたりする中での豊かさを感じる社会となると、いい言葉はないが「スポーツライフ先進県」とか、よそにないものを何かを作っていくというような姿勢が必要のような気がする。それを言われているのが「スポーツ王国広島」なのかは分からないが、確かに広島も笑顔とか、歓声とかがスポーツの世界ではあるが、それが平仮名かカタカナの広島に通じていると思うので、我々は日本の各県の中でも、広島らしさを出すということになるとどうしても、カタカナか何かにつながるとし、スポーツライフ先進県、何かそういったよそにないようなものを期待しているところである。

〔西野委員〕

私は、障害者スポーツに携わっていて、スポーツが時には癒しになることがあって、外にでるきっかけになっている場合がある。スポーツが生活の一部になっていくプロセス、つまりどのような感情で、どのようなやり方・方法で障害がある方が一つのスポーツを獲得していくのかというプロセスがある。

その中でスポーツがみなさんにとって身近なもので入りやすいものになっていけばいいと感じている。この施策の中でも障害者スポーツの振興というところで、メジャーなものに関してはたくさんあるが、メジャーではないものもたくさんあるということを経験して自分たちもアピールしていかななくてはならないと感じている。

〔東川部会長〕

障害者スポーツの振興が大きな柱として出たというのは、この基本計画の中では非常に珍しい位置づけではないかと思う。

一般的には、「市民のスポーツ・レクリエーション活動の振興」の中の小項目として取り上げられることが多いが、三本柱の一つとして入ってきたというこの位置づけというのは、西野委員や田川委員からスポーツをもっと広く捉えていくということが反映されていると理解しているのか。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

もちろんそういうことだろうと思う。通常高齢者とか障害者というのが一つのくくりであったり、今までは高齢者だけというイメージであったと思う。もちろん高齢者の福祉の中にはスポーツも入っているが、こういう形で障害者スポーツが入ったのは、西野委員が言われたことも配慮してこういう形でまとまってきたと思う。

〔崎田委員〕

一番気になったのが吉島体育館の立て替えのところで、広島市に住んでいて思うことであるが、スポーツ施設が十分かどうかということである。これらの施策をみると、施設は十分で、あとはソフトの部分だけすればいいような内容になっているが、ハードの部分、体育館や運動場がもっと増えてくればいいと思う。

もう一つは、「新しいスポーツ王国広島」のところで、その後「振興」という言葉がすべてついているが、「振興」の捉え方である。スポーツを振興すれば、スポーツをする人だけが得をするようなイメージを受けてしまうため、スポーツを振興すれば広島市民がより豊かになることから、スポーツをやっていない人も含めて振興するような方向で検討してもらえたらいい。

〔中本委員〕

スポーツ王国広島が問題になっているが、もともとスポーツというのは「遊び」である。私

は色々な指導者に会うが、私は子供たちや選手にスポーツの楽しさを教えるという部類に入る。スポーツはみんな楽しいからやっている。スポーツ王国広島というのはどちらかというところ受けのイメージは「競技性」というイメージを受けてしまう。すべてトップをとってやろうとか日本一になってやろうとか……。逆にスポーツというものは遊びであることから例えば「レッツ・プレイ広島」のように「さらっ」と言った方がみんなもとつきやすいのではないかと。

〔曾根委員〕

全体的には色々なことが網羅された、非常にバランスのとれた中身になっている。あとは文言だと思ふ。言葉一つでイメージが変わってしまう。イメージが変わると人々の意識が変わるということで、そういう意味では、どういった言葉をいれるかということは非常に重要である。

それと、一言入れておいた方がいいと思うのが、「まちの活力創出に向けたスポーツの振興」という部分で、「スポーツを通じたまちの活性化」ということである。ここで重要なのは、「国際的・全国的・・・」や「プロスポーツ・・・」とあるが、これがまちの活性化ということになると、スポーツとまちづくりということになるのかもしれないが、そうするとやはり連携やネットワークの推進が重要になってくる。このため、もう一つ小さな柱として、例えば多様な連携とかネットワークの創出などがあつた方が「まちの活力・・・」という部分が生きてくると思うので、また検討してほしい。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

今はこういうまとめた形で出しているのですが、ざっと箇条書きのようにになっているが、実は総合計画になると、現状とか課題といった前文のようなものが入り、こういう「趣旨」であるとか、先ほどあつた「連携したまちづくり」といった入れ方もあるので理解してほしい。

【議事の(3)：スポーツ振興に関する取組の現状と今後の課題等について】

【議事の(4)：市民意識調査の実施について】

〔東川部会長〕

議事の(3)「スポーツ振興に関する取組の現状と今後の課題等について」と、議事の(4)の「市民意識調査の実施について」は関連性があるため一体的に事務局から説明をお願いします。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

< 配付資料を説明 >

〔曾根委員〕

是非入れて欲しい、是非聞いてみたいという質問項目がある。

広島市民のトップスポーツの観戦率である。どのくらい、何人来ているのか。

例えばサンフレッチェにどのくらいの人が足を運んでいるのか、実際はサンフレッチェの方がカーブよりたくさん来ているとか。その辺をどこかに入れたら結構おもしろいと思う。今度新球場ができるし、案外市民は年に1回しか行っていないとか……。そういうことに対して今度はどのようにしてみんながトップスポーツを観に行ってくれるのか、支援の仕方が出てくるのではないかと思う。

もう一つ、広島でオリンピックを開催することについてどう思うかということであるが、開催するのに数千億円かかるが、本当に開催したいと思っているのか。市長からそういうふうに出てくれという指示が出ているのか。例えば、再度アジア大会などを誘致するとか、開催するということであれば分かるが、ちょっと何かかけ離れていてすごく違和感がある。もちろんきてくれたらいいが、2016年にはもしかしたら東京が決まるかもしれないし、決まらないかもしれない。決まったらこれはどうなるのか。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

まず、観戦率とうことでは、一応サンフレッチェもカーブもデータのものはある。

アンケートに入れるかどうかについては、例えば、お手元の資料編ということで、お配りしている中で観戦者数が出ているが、もちろんこれは市民だけではない。

〔曾根委員〕

カーブやサンフレッチェだけではなくて、例えばJTとかトップス広島のチームなど主なものを入れて、市民はどうなのかということが知りたい。

〔本谷委員〕

サンフレッチェは、どこが何人かということは大体把握している。例えば広島市は何人とか、他県は何人かとかというデータは把握している。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

アンケートの中で、新規で「会場に足を運んででも見たいスポーツイベントは何か」というものは付け加えているが、「もっと回数も」ということか。

〔曾根委員〕

もちろん回数もほしい。1年間どのくらい足を運んでいるのか、純粋な市民の意識調査があるといい。個別には調査しているのかもしれないが、トップス広島に入っているチームなど、具体的な競技名をあげて調べてもいいと思う。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

前回のアンケートの5ページの中で、「よく行った順に下の表から2つまで選んでください」という項目があり、6ページには「見てみたいと思うスポーツは」という項目があるが、例えばこれに追加してサンフレッチェやカーブを入れておいて、実際に観にいったことがあるかどうかを入れることはできるのではないかと思う。

それとオリンピックの件であるが、総合計画の中に入っているのは、市長の方で2020年に「2020ビジョン」というが、核廃絶を実現するという目標を立てており、「市民と市政」の市長日記など、いろいろな場面で言われているが、市長は「2020に核兵器の廃絶が実現するならば、そのお祝いとして是非オリンピックを実現したいという『夢』をもっている」という言い方をしており、曾根委員が言うに財政的なものはどうするのかということもあるので、そのことについては「非常に難しいですね」という言われ方もしている。

ただ、オリンピックを本来のあり方としてよく言われる「商業主義でないオリンピック」であれば広島でも可能という具体的な夢がある。確かに10月2日、仮に東京が決まったら次に日本は立候補するのとかいう具体的な議論になってくると「様子を見ながら」ということになるが、今の段階ではアンケートで、「財政的にはかなりかかるんだけど、それでもやりたいと思うか」という質問をしてみてもどうかという思いでこのような書き方をしている。

〔曾根委員〕

つまりどういうことかということ、モントリオール市では、1976年にオリンピックを開催して以来、1990年くらいまでオリンピックの赤字を市民の税金で払っていたそうである。そう考えると、アンケートにこれが入っていることによって「広島市はそんなことを考えているのか」と市は誤解を受けるということである。それよりやらなければならないことはあるだろうと言われた時に、スポーツ関係者に対して批判というか非難が来そうな気がする。

オリンピックが入ってしまうと、今度はこれに予算がつくのか。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

来年度予算はまだ要求していない。意見として「入れない方がいい」ということであれば入

れないということも考えられるが、実際するとなればもっと本格的にやらないとできないとは思いますが、事務局サイドでは、「平和の祭典としてのあり方は検討します」といった時に、財源問題については、東京都の場合も何千億なので、例えば「何千億かかるけど、それでもやりたいと思いますか」という質問をしてもいいのかなと思う。事務局としては一応遡上にはあけておいてもいいとは思っている。

〔鍋島委員〕

これは夢なので、財政的にどうかとかいうのであれば、それなら最初からやらなければいいということになる。財政的なことを考えたらみんな×をつけると思う。したがって「オリンピック等平和の祭典をひっくるめてビッグイベントをやりたいですか」という質問にしたらどうか。スポーツ振興というものは、「夢」があったらみんな頑張ろうという気持ちになる。あまり財政的なことばかりを言うどうしても現実的になってしまい、「やらない方がいい」ということになる。

〔東川部会長〕

広島のスポート振興のあり方ということで、その中に国際大会等の開催・誘致というのがあって、それをオリンピックなどの名前を頭につけて、もう少し具体的にし、それを全体的な構想や振興策の中で考えるということもできるかもしれない。もちろん独立させることも考えられるが、私も内心「やりたい」と思っても報告書に書かなくてはならないので、それをどう取り上げるのか、取り上げ方もいろいろ工夫はできるとは思う。独立させるか今あるものの中に入れ込むかだと思う。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

13ページの問37で、これからの広島市の・・・の中で、「国際スポーツ大会などの開催・誘致」と簡単に書いているだけなので、そこをどう書くかといったこともある。

〔東川部会長〕

それも一つの案である。

〔田川委員〕

アンケートの対象が20歳以上というのは年齢別で分けているわけではなくてアトランダムな感じになるのか。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

そうである。

〔田川委員〕

そういうことは、ある層は多い場合もあるし、少ない場合もある。

なぜそういうことを質問したかということ、最近みなさんよくご存知のとおり、スポーツセンター等を利用する方が、60歳以上の方が多くなっており、そのために今までのスポーツ施設ではなかなか対応できないような問題も起きている。

例えば泳ぐ前提でつくった施設であるがプールを歩く人が増えている。では歩けるような施設がきちっとできているかという十分な対応ができていない。これはやむをえない部分はあるがそういう意味で、60歳以上の方がわずか50人くらいしか応えていない中で、市の施策を反映できるのかという心配をしたため、これまで年齢別のニーズをどのように調査していたのかということで、本当に20歳以上でいいのかどうか心配になった。

そこで、もう一度西野委員にお聞きしたいのは、障害者の方々に対してのスポーツニーズというのは独自に調査をされているのか。

〔西野委員〕

心身障害者センターがアンケートを行っている。

〔田川委員〕

ということは、障害者の方々にニーズはある程度把握されているということか。

〔西野委員〕

そうである。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

前回20歳以上ということでアンケートを実施しているが、年齢構成のデータは出てこない。人数的なことであるが、例えば前回であれば60歳から69歳までが19.5%とかで、40歳から49歳が18%とか、だいたいうまくいっていると思う。

〔田川委員〕

なかにはできるものとできないものがあるとは思いますが、年齢別分析というものを考えていくといいと思う。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

年齢を基準にして、各年齢層でどうなのか集計してみたい。

〔鍋島委員〕

今の田川委員の質問に連動するかもしれないが、施設の利用料金のことですり気になることがある。これから10年先にはスポーツ人口がすごく増えていくわけであるが、市民スポーツというのは結構安いというイメージが強い。一方チャンピオンスポーツになると、スポーツジムなどは非常に高いお金を出してもそこには求めるものが明確であるから、そこに参加する人もいると思うが、先ほどNPOの話も出たが、ソーシャルビジネスというのがすごく大きな課題になっている。

ということは、目的は金儲けのためではなしに、スポーツがどう振興するかという市民がそれで活性化するかということを目的で、利益率は低くても金額設定をするようなビジネスが出てくる。

それはNPOの中心になると思うが、そういう中で、市民スポーツというのは確かに現在区のスポーツセンターに行っても結構安い金額で利用できることから、今後市民の方が増えていくと、公園整備をどうするかなど、体育施設をどんどん増やさなければならないのではないかと思う。

ここで言いたいのは、市民の方が体育施設を借りに行った時に、借りたい人がたくさんいた場合は断られているのかどうかという問題と、どのくらいの金額なら自分たちは借りるのかということなど、今は安いと思っている人に対して、これからは少々お金を出してでもスポーツを楽しもうとしているかどうか分かるようなアンケートをしてほしい。

〔東川部会長〕

確か平成3年にすべての区にスポーツセンターができたと思うが、かなり利用状態がいいようである。施設を使っている人の中には、使いたくても使えなかった人もいるなどの把握も必要だろうし、使っている人はどのように評価をしているのかも必要であろう。さらにそれに対して利用者というのは本当に喜んでもらっているのか。この中には入れられないとは思いますが、気になるといえば気になる。これだけの人が使っているということでの先ほどのサンフレッチェの観戦実態はあるが、施設を利用した場合でも、市民の人がどう評価しているのかという別仕立ても考えなくてはならないのかなという思いもある。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

そのことはよくわかるが、スポーツ施設を使っていない人がどれだけいるのかも分からないし、どういうスポーツを望んでいるのかも分からないというもある。例えばスポーツセンターに来られる方に利用料金がどうかとか、使われる団体の人に利用料金はどうかとか、そうすると使っていない人は分からないというのはあるが、スポーツもいろんな種類があるので、簡単ではないかなと思うが、もし可能であればスポーツ団体とか利用者であるとかそういう人に聞くほうが分かりやすいと思う。それは別に行ってもいいし、スポーツ協会に協力してもらう方向も含めて検討させてほしい。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

補足であるが、指定管理者に変わり、毎年1回利用者に満足度のアンケート調査を各スポーツセンターで実施しており、それで満足であるとか、不満な点であるとかなど、スポーツセンターの利用者に調査を行っている。

ただし、料金は入っていない。例えば、施設がきれいとか、対応はどうかとか、料金が高いかどうかとかなどは、自由記述の中で駐車場の有料化に伴う料金も含めていろいろな意見として聞いている。

〔田川委員〕

満足度の調査のデータも出して検討したらどうかと思う。これだけですべてを諮るのは大変である。

〔東川部会長〕

田川委員の言うとおり、そういうのがないのであれば別仕立てで出していかないと1,000、2,000人の意識調査だけで走ってしまう恐れがある。

今、田川委員から出たことは、基本構想の中にもある。例えば総合型地域スポーツクラブというのが出ていたと思うが、その中でよく出る年間いくらくらいだったら入ってもよいということ聞かれたりすることもあるが、施設の使用料だけではなく、これくらいならお金出しても良いといった聞き方をすることはできるかもしれない。全体の項目中でも一つでも入れてやれば良いと思う。

〔萩原委員〕

いつも思うことであるが、スポーツの振興と言っても施設がない。広島市は施設が少ない。それといつも感じるのは、お金をとる割には整備が出来ていないということがある。スポーツの振興と言っても設備を整備しなくてはならないと思う。

私のところは、運動場はあるが小学校しかない。総合型といってもなかなかできないという気がする。例えば、総合型を中学校区でやるとなると小学校が3つあるから今度は施設に通うのが大変である。スポーツをする人は歩いて行けばいいじゃないかということであるがなかなかそうもいかない。難しい部分もあると思う。

それと曾根委員が言ったように、私はオリンピックはできないと思う。アジア大会でも大変だったのにオリンピックのような大きなものは広島市ではできないと思う。財政的にも無理だと思う。

〔東川部会長〕

施設・設備については、小項目で入っているので、スポーツセンターの利用状況も合わせて検討する必要があると思う。

〔本谷委員〕

小学校、中学校、高校がスポーツのクラブに入っていますが、スポーツをはじめたきっかけ

の項目を入れてほしい。そうしないときっかけづくりの瞬間という明快なところが見えない。スポーツを観たからなのか、親から言われてなのか、友達がやっているからなのか、なぜ始めたのかが明確にならないと競技団体も含めて、具体的なものが対処できないのではないかと。ぜひ、なぜ始めたのかを聞いてほしい。

〔阪田委員〕

小学校に赴任しているが、子ども達は目標をもててない。目標がない子がたくさんいて、テーマにもあったスポーツ王国広島という部分も「みなぎる広島」などがないとダメなのかなと思う。

アンケートの中にも「授業前後にスポーツをやっていますか」というのがあるが、広島市すべての小学校でやっているはずである。体力づくりタイムを設けているので、その部分はもう結果は見えていると思う。

学校では、それぞれが目標を立てながら何をしなければならないのか考えている。私のところは、パワーがないということで、瞬間的に出す力を仕向けてやっている。

それぞれの学校が何か目標をもちながら今取り掛かっている。先ほどのきっかけは何なのかということは非常に大事なことかなと思う。

〔新出オブザーバー〕

スタートが何かというのは非常に大事である。先般本校にサンフレッチェの選手ほかコーチの方々が来られた。いろいろやってはいるが、そうでない子はやっぱり入会希望を出してつじつまをあわせないといけない。一人二人で50人60人の面倒を見なければならないし、指導者の方はボランティアで、危険の伴うところでただ遊ばせるだけでいいということで面倒を見てもらっているが、そこで5・6人の指導者いれば解決するのですが、ただ本校は1000人以上の子どもがいるため、いろいろなスポーツをやっているが、それぞれのクラブ人数は多いが、全体的にはスポーツをやっている子はそれほど多くない。

子供たちは遊びが好きですから、遊びはとっても楽しいですからやはり今の時代、怪我などが生じた場合は大きなトラブルになる場合があるので指導者も難しい。やりたい子はたくさんいるわけで、その子たちが本当にできているかどうか。今の時代はクラブの場所まで親が送り迎えしている。四六時中行ったり来たりしているから、お父さんかお母さんかどちらかがボランティアで、当番のような形で何日かに1回は手伝いに行かなければならない。そうすると子供が行きたいといっても「私がいかなければならないから行ったらいけません」ということになる。五日市にジュニアオリンピックという陸上チームがあるが、遠くて子供だけでは行けない。やはり指導者の方と学校施設を若干整備してやっているのが現状である。

〔東川部会長〕

平成13年からスタートしたDスポーツのことであるが、4年くらい前Dスポーツでトップスの選手たちから学校にきて教えてもらった子ども達にスポーツをやってみたくなかったかどうか聞いてみたことがあるが、非常にいい結果が出ていた。

これまでやって来ている事業でいいものがあれば、評価ができるようなことも裏づけとして取れるものなら取ってみたい。そうしたことがきっかけづくりにうまく結びつけられればさらにいい方向に行くのではないかなと思う。

〔曽根委員〕

前回14年にアンケート調査を行い、15年に意識調査の結果が出たが、その時に子ども達に1年間に学校の体育以外でどのくらいスポーツをやっているかを調べた際に、月に1回から2回でほとんどやっていなかった。体育の授業以外にはほとんどやっておらず、4人に1人の

25%くらいだったと思う。そこでどういう要因でできないのか是非聞いてみたい。

〔東川部会長〕

前回と同じ調査にするのであれば、やった人に対して目的は聞いたが、やらなかった人に対しては入っていない。

〔曾根委員〕

大人のやっていない理由は何ですか。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

やっていないというのは大人もである。

〔東川部会長〕

内閣府が行っている世論調査には入っていると思う。

〔東川部会長〕

今日の部会で検討いただいた内容が、基本的な枠組みになる。もちろんこれに縛られるわけではないが、これらを踏まえながら検討していきたい。その裏づけとなる意識調査については、さらに反映できるようなものを追加して調査項目を作っていこうというおおよその確認はできたと思う。そのことが次の3月24日の審議会で諮るという流れになる。そういう方向で、審議会の方に、お諮りするっていうことでよろしいか。

< 異議なし >

これからの流れを教えてください。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

前回、第1回の審議会で流れを説明させていただいているが、ここでアンケートの項目を決定して、4月から5月かけて調査し、5月頃にアンケート結果を踏まえ、具体的な計画の内容や現状を検討していきたい。そこでもう1回説明するという形になる。

〔東川部会長〕

事務局の方から今後の流れを説明してもらった。今日の意見を具体的な内容に反映させていき、次の24日に提案することについては、私の方で一任をさせていただき事務局と内容を整え、24日の会議に諮りたい。

【閉会】